

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

Psychological distress during pregnancy in Miyagi after the Great East Japan Earthquake: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

東日本大震災直後の被災地宮城における妊娠中の精神的ジストレス

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Affective Disorders

年: 2016 月: 1 巻: 190 頁: 341-348

筆頭著者名: 渡邊 善

所属UC名: 宮城UC

目的:

自然大災害は、うつ病や不安障害が増加するなど妊婦の精神状態にも多大な影響を与える。平成23年3月11日に発生した東日本大震災直後、当時被災地にいた妊婦は相当な精神的ダメージを負った可能性が高かった。震災直後の妊婦の精神状態を甚大な被害を負った宮城と影響の少なかった他の地域で比較した。

方法:

平成23年6月から12月までに出産した妊婦さん7,473人を対象とした。妊娠中に行ったアンケート調査より、精神状態やストレス経験などのデータを用いた。精神状態パラメータとしてKessler 6-item psychological distress scale (K6)を用い、K6スコア13点以上を精神的ジストレス(不安や抑うつなど)とした。精神的ジストレスと地域差(宮城県の沿岸部と内陸部、その他の地域)の関連を解析した。

結果:

精神的ジストレスを有していた妊婦は、宮城県(内陸部(4.6%)、沿岸部UC(5.5%))で多かった。宮城県内陸部や宮城県以外の地域では、ストレス経験の有無により精神的ジストレスは増大したが、宮城県沿岸部ではストレス経験の有無にかかわらず精神的ジストレスを有していた妊婦が多かった。

考察:(研究の限界を含める)

東日本大震災前のデータが無いこと、被害状況を調査データが無いことなどから、ストレス経験と震災被害との関連性は分からない。つまり、東日本大震災、特に津波が妊婦の精神状態にどう影響しているかは直接的に知ることができない。

結論:

東日本大震災後、甚大な被害を被った宮城では妊婦の精神的脆弱性が高まっていた。自然大災害直後の被災地においては、妊婦の精神的ケアは重要であり、特に被害が深刻であった地域においては、被害状況の程度に拘らず心理的サポート体制が不可欠となる。